

# 新しい一人会派 「対話で行こう! 東村山」を 議会基本条例の改正により結成しました!

▶9月議会最終日(10月3日)に可決した議会基本条例の改正を踏まえ、私は一人会派「対話で行こう! 東村山」を11月7日付で結成しました。略称は「対話!」です。これでこの4年間は会派と認められなかった5人の議員は、それぞれに一人会派となりました。

▶議員同士の白熱の議論は議会HPの動画記録からご覧いただけますが、改めて、議会での発言は永久に残りますので、その場しのぎの発言をしたり、自分の過去の発言を忘れたかのような無責任な発言をすることが、いかに議会内外の信頼を失墜させるのかということ、自戒も込めて肝に銘じた2時間40分の議論でした。

▶また、議長経験者の議員から私に対して



「佐藤議員は現在は市議会の副議長として、議会運営全般を議長と補佐して、しっかりと見守り進める立場にあると思って考えています。加えて過去には議会運営委員会や代表者会議で一緒にさせていただいたこともありますが、(中略)今回の改正案の提案者になっていることについて説明をお願いします。」と質疑がありましたので、私はこう答えました。「おっしゃるように議長を補佐して議会運営に当たっているわけですが、副議長が提案者になっていけないという理由は何もないと思います。そして、この件についてもう少し申し述べれば、私はこの事態はこれ以上副議長として看過できないという判断からこちら側に座っています」。

▶名称を「国政政党名に限る」と今夏の議会運営委員会で突然言い出したのも同じ議員ですが、私たち議員は市民の権利や義務に関わるルールを議論して決定する立場ですので、その発言には責任が伴うと共に、法律や条例、過去の会議録等、何らかの根拠を踏まえることが当然求められます。

## 佐藤 まさたか 市政レポート

第112号  
2025年11月15日発行  
【発行】ちゃんと変えよう! 東村山

▶会派の名称は、各自が自分の所属する政党や団体の名称、大切にしている政治姿勢等をもとに名付けました。私は東京都選管に届け出ている政治団体「ちゃんと変えよう! 東村山」も考えましたが、今回の議論の経過を踏まえると共に、私が今、最も大事なことを考え、私自身の課題であるとも考えている思いを言語化し、名称としました。残り任期1年半はこれで行きますので、どうぞお見知り置きください。この日の白熱の様子は、市議会HPの録画からご覧いただけますし、私は文字起こしをブログにアップしてあります。



当日の様子を報じた  
「はなこタイムス」の記事

## 「議会から地方を変え、地方から国を変える」

～北川正恭先生の最終講義に寄せて～

### 今年も全国地方議会サミット2025に運営委員として参加

▶マニフェスト大賞で初めて優秀コミュニケーション・ネット選挙戦略賞をいただいた2015年(第10回)のプレゼン大会後に「君は伝え方がうまいな」と笑顔で声を掛けてくださった北川先生。

ん? 中身を褒められているのではないみたんだな...と思ったけれど、よし、もっと頑張ろうと決意したことを思い出します。

▶翌年の第11回、視覚障害者の方たちと共に秋津駅～新秋津駅間を当事者が自力移動できる凹凸付白線を実現できた件で、議員による政策提言部門の最優秀賞をいただきました。

ローカル・マニフェスト(LM)推進連盟とマ

ニフェスト大賞は、22年半前に議会内では一人ぼっちでスタートした私に、たくさんの得難い経験と、北海道から沖縄まで旧友のように互いの頑張りを応援し合える同志を与えてくれました。

▶マニフェスト運動を提唱され、「議会から地方を変え、地方から国を変えよう」といつも明るく強く語り、私たちを励まし続けてくださった北川先生に、最終講義後に心よりの感謝を申し上げました。

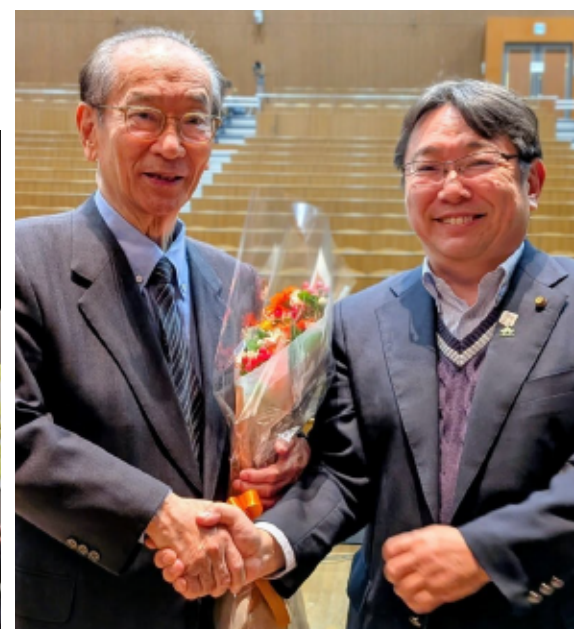
また、今回の会場の法政大学薩埵ホールは、前・法政大学総長の廣瀬克哉先生が2007年の統一地方選挙に向けて提唱された

「変えなきゃ議会」の運動に呼応して最初に参加した勉強会の地であり、「市民と議員の条例づくり交流会議」の舞台として毎年お世話になった場所でした。

▶長年切磋琢磨してきた全国の地方議員仲間、首長、公務員や研究者の皆さんに久しぶりにリアルでお会いし、語り、学び、酌み交わし...本当に幸せな2日間。最後は北川先生から渾身の喝を受け、明日からも自分を磨き、前を向いて頑張ろうと思えました。



全国で善政競争に  
奮闘する議員や  
首長の皆さんとともに



最終講義をエネルギーに終えた北川先生とガッツリ握手



# 「知る、伝える、広げる 多磨全生園の地元議会として」

～全国で読まれる地方自治の専門紙「自治日報」第4338号「議会欄」に掲載いただきました～

## 議会



東村山市議会副議長  
佐藤 まさたか

■ハンセン病のこと、知っていますか？

東村山市といえは？と問われたら、私は「多磨全生園がある自治体です」と答えたい。市内には唯一の国立ハンセン病療養所があり、1909年に当時の隔離政策に基づき公立療養所として開設され、1941年に国立療養所となりました。ハンセン病は日本でも戦後すぐに特效薬による治療が始まって治る病気になりましたが、患者は誤った理解と偏見から隔離と差別を受け、子どもを持つことも故郷に帰ることも許されず、筆舌に尽くしがたい辛い過去を背負って来られました。

私が全生園に出会ったのは2002年に東村山市民となり翌年に議員になってからです。自分自身が33歳であった1996年に「らい予防法」が廃止されるまで、国による隔離政策が継続されたという事実を「知らなかった」では済まされないと思いました。1998年の国賠訴訟で国が誤りを初めて認めて原告が勝訴。2009年に「ハンセン病問題基本法」、2019年に「ハンセン病元患者家族補償法」が施行されましたが、元患者の方々、そしてご家族の名誉回復への道はようやく開かれたばかりです。

## 知る、伝える、広げる 多磨全生園の地元議会として

■将来構想の公表

今年3月、多磨全生園、入所者自治会、東村山市の三者で策定を進めてきた「国立療養所多磨全生園将来構想（令和7年3月版）」が公表されました。副題は「入所者の暮らしと想いを守りながら、未来へ残そう！人権の森」のちを育み癒す森」。

1943年には1518名が暮らしていましたが現在では80名を切り、平均年齢も89歳を超えています。病気が治癒されたものの後遺症や様々な疾患により介護が必要な方も増えており、将来構想3つの基本方針の1番目は「在園保障」です。入所者の方々が安心して暮らし続けられる医療や福祉の国による提供が何より優先されます。その上で、方針の2番目は「普及啓発」、3番目は「地域開放・共生」です。

■「わたしの命の物語」

今年9月、多磨全生園内にある国立ハンセン病資料館で、紙芝居「わたしの命の物語」のお披露目会があり、議長とともに参加しま

2019年には当時の議長の呼びかけで議員研修会「ハンセン病の歴史と多磨全生園の現状について」が開催され、入所者自治会長らにハンセン病と多磨全生園の歴史、現在の課題等についてお話しいただき、意見交換を行いました。

2022年7月には議会基本条例13条を根拠に政策研究会「多磨全生園の将来構想に市議会は何ができるか」を7会派9人で設置し、有識者、市の所管、園に携わる市民団体等から順次お話を伺い、メンバー間の討議を経て次の2点を取りまとめ、翌年2月に議長に報告書を提出しました。

①多磨全生園を、将来にわたり国の人権学習の拠点としていくこと。

②多磨全生園における国策による人権蹂躪の歴史を踏まえ、市民と共に今後も人権啓発のあり方について、研究や議論を継続して行っていくこと。

した。ハンセン病により強制隔離された男女が結婚して新しい命を授かることも出産が許されなかった事実を、生まれることのなかった赤ちゃんの独白の形で話が進みます。多磨全生園に住み、全国ハンセン病療養所入所者協議会事務局長を務めて3年前に他界した故・藤崎隆安さんと、その妻で園内のお食事処「なごみ」を切り盛りする美智子さんの強い想いを受け、小説「あん」の作者・ドリアン助川さんによる脚本、田川誠さんと深澤慎也さんの優しい絵、市内紙芝居サークルの協力等で実現したプロジェクトです。

■地元の議会としての使命

北は青森県から南は沖縄県までの国立療養所と私立療養所が1つあり、それぞれが普及啓発や地域開放の取組みを進めていると聞きます。東村山では、多磨全生園が東村山市民のみならず日本中、世界中の人々が人権を学ぶことのできる場として保全され、普及啓発が進むように努力を続けることが、地元議会としての使命だと考えています。

私自身も、より深く「知ること」、一人でも多くの方に「伝えていくこと」、そして様々な人権問題に取り組む全国の自治体議会の皆さんと繋がって、分断や差別や偏見のない社会へ向けた多様な活動を「広げていくこと」を続けていきたいと考えています。東京へお越しの際は、ちょっと足を伸ばして緑あふれる多磨全生園へぜひお立ち寄りください。



「いのち」の森の森宣言

## ■12月定例議会の予定

今年最後となる定例議会は、12月1日(月)から23日(火)の予定です。現在のところ以下のような日程が見込まれています。

12.1(月)開会・本会議初日

12.4(木)5(金)8(月) 一般質問

12.10(水)～16(火) 委員会開催日

12.23(火) 本会議最終日・閉会

12月  
定例議会  
直前

情報共有の  
「まさたかミーティング」へ  
お出かけください！

① 朝まさたか@廻田公民館

11月22日(土) 10時～11時半

② 午後まさたか@市民センター

11月22日(土) 15時～16時半

③ 夜まさたか@オンライン

11月22日(土) 20時～21時半

■私を応援くださる方に限らず誰にも最新情報を共有いただきたいのでSNS等で広く呼びかけ、オンライン開催も続けています。

■会場へは直接お出かけください。Zoomの入口も書いておきます。予約不要。どうぞ気軽にご参加ください。

■夜まさたかZoom入口:

スマホやパソコンのZoomアプリ(またはブラウザのZoomページ)から、ミーティングIDとパスコードを入力して参加してください。右のQRコードからも参加できます。

ミーティングID: 816 8555 3417  
パスコード: 806426

12月定例議会の直前情報をお届けします。  
率直なご意見やご提案をお聞かせください！



## 佐藤まさたか

1963年日野市生まれ・慶應義塾大学経済学部卒・中高社会科教員免許。大学卒業後、一貫して教育や保育の現場に身を置き、2003年に東村山市議初当選。政党や特定の団体の支援を受けない超党派無所属市議として6期目。NPO法人多摩住民自治研究所副理事長/ローカル・マニフェスト推進連盟/市民と議員の条例づくり交流会議等の運営委員/日本シティズンシップ教育フォーラム/子どもの貧困対策センター「あすのば」/自治体学会等の会員/全国の優れた政策実践に贈られる「マニフェスト大賞」で最優秀賞1回、優秀賞2回受賞。

声を聴き、足を運び、市政充実と議会改革に取り組んでいます

「佐藤まさたか市政レポート」は不定期の発行です。佐藤まさたか本人とボランティアの仲間が、駅頭(主に東村山駅西口)配布やポスティングを行っていますので、連続してお届けできなかったり、発行日から時間が経っている場合もございますがご理解ください。バックナンバーはWebサイト(sato-masataka.net)でご覧いただけます。

市政や議会へのご意見、ご相談など、どうぞお気軽にFacebookやTwitter、ブログから発信中。

「佐藤まさたか」で検索してみてください！

メールアドレス: 0627gachapin@gmail.com

東村山市廻田町2-21-13

TEL. 090-6018-3572

※電話よりもメールやSNSの方が確実です



マニフェスト  
大賞  
受賞